

古今
和漢

本朝全書

万寶全書

專門
 雜書
 傳野
 五三
 畫術





本館書庫



白類文庫

本館書庫

専門家

狩野正信六指聖乃先祖なり
 儀名曰師二帝と名づく又大炊
 師と稱す判髪志とく執勢と
 及び晩年を養老小門之法
 眼後小教す後氏乃支別お別小
 田原乃人方り囊祖の俵豆圓使
 持せ渡河古維系乃後裔なりま
 伯依と号す後花室院永享年
 申小門之く慈恩院小住へ居士
 降とあり古法服を信り又たり
 今元禄六年亥二月乃祀を以て
 二百七十年小及の過家の月次
 降り又小栗宗丹と降りてく

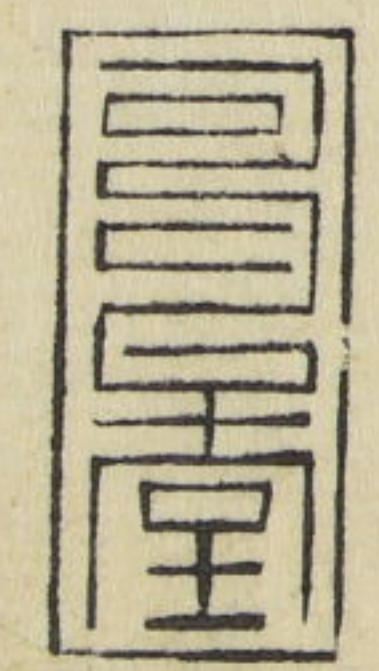


を執意とほりて人おの又采の樂
擯とありてりるめ云方お金園
乃徳と家丹おひらまき畢と
あくと死その書毎吸納と云除小
あり幻云命と云く徳と書母り
あぐと云めん守書母金版乃後
小抄のく首と書徳乃宜あさ
るものと様徳一潜小正信と云
めとこれと云ぐとめり書母が
信小所謂を能小不ろく守僕
意徳徳乃のありと云ひるなり
と小抄のく正信と云く徳小云
せると云と云られり書法雅意
小書と云く定法ありひらと云
格式同部りも子元信と云ら
小書と云く徳氏於小天下と云の

中とありりるを云く云く此初を
心人抄小生守書と云く徳意小用
のて小書徳乃物と云と云と云

正信

印文



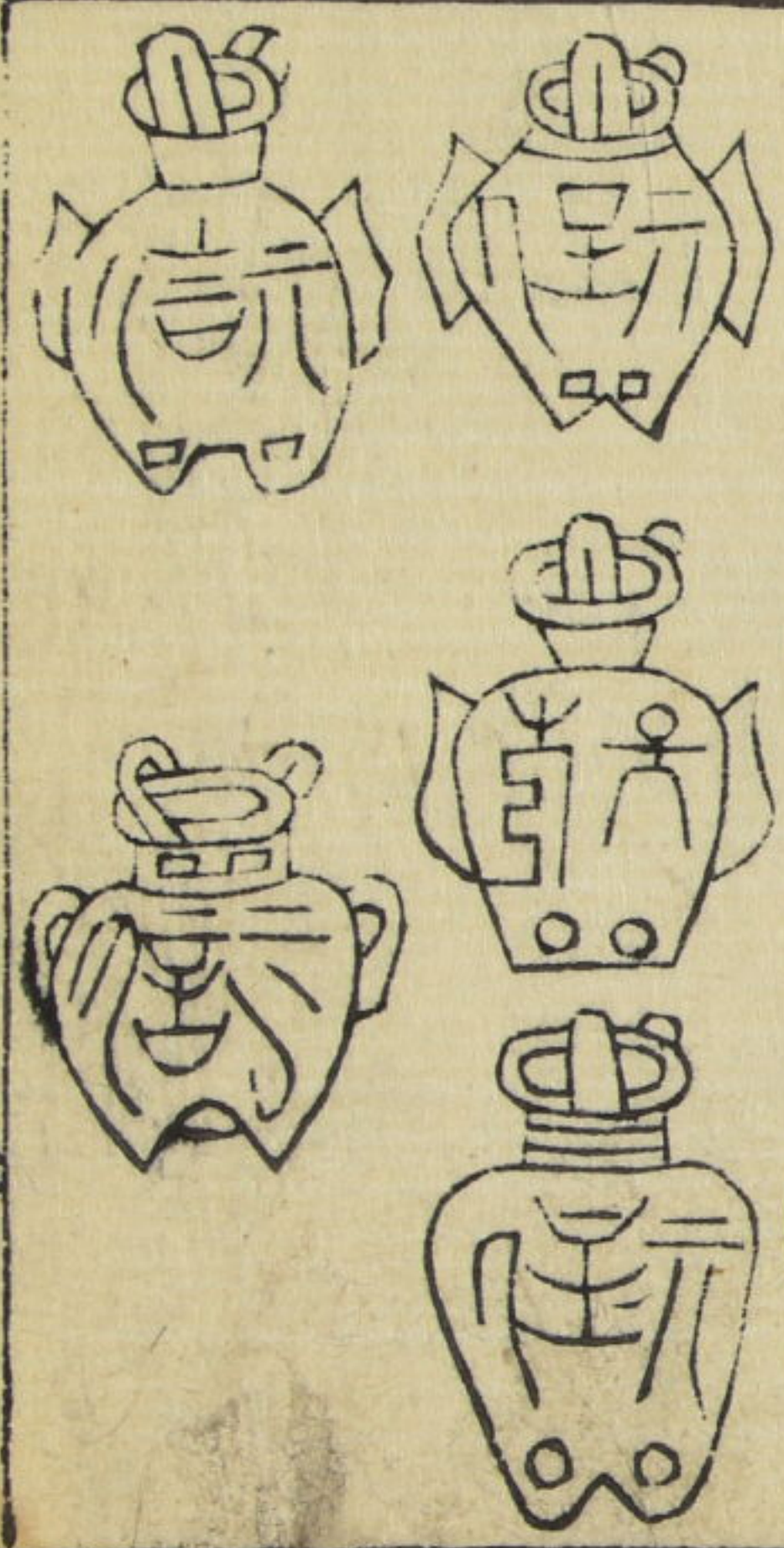
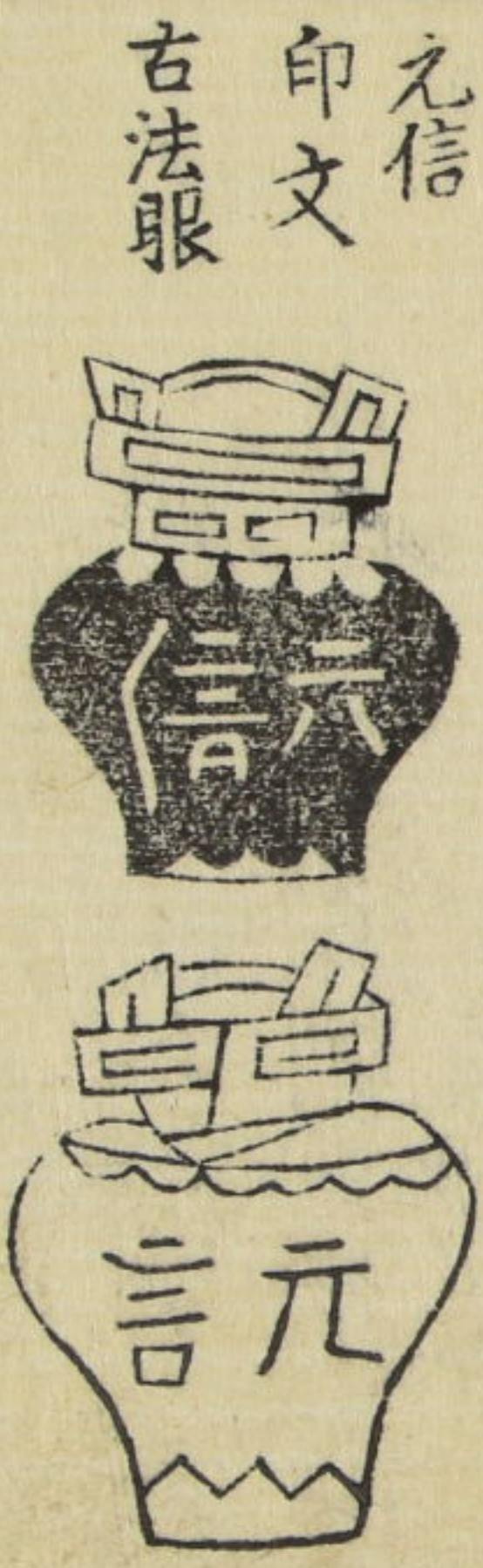
抄野元信七 秋法正信が長子
初名四高二而又大炊師と稱す
及又越後中い任す統後と云
永仙と号す号く法服位小

叙す世小古法服と云の是なり
 吾瓜多あつ又小古より徳也
 乃家と云る也之古作也信
 奪たり去依氏宗族かたはりて
 元信はどく後所乃強りとあり
 於温良中細密極同中は信
 秀あり山あく物多歎花本た小
 妙也と極く非小入也世古作
 氏乃和益吾母子乃善益吾を
 極小即り元信りどくは信を
 矣どつう一和漢も宜瓜なり安
 と坐くた今小冠として和法小甲
 たり和心乃法教極乃山あ花也
 信く南船小附く信也事
 知勤城鄭汝これとて日本又百
 年未だ信あると云とあり

友士はが時小ありかあらず
 矣信乃列小あんと別書強く
 歎矣せりも信未く小留す元信
 わして愛一仍脚とめく一山川
 乃務境と云まく物信乃信也
 らんと信一自處困と負麻衣
 畫々其信と信ありく一也
 聖小乃根本然聖小より信小
 任とく信信と信せり又聖金之
 後信乃多子友家と信友よりそ
 金これ妙術の元信が畫信小乃
 るもれたり或は是信と信を始
 て天物乃奇信と書ゆら物今
 も信乃乃雲西小あり信元信
 が信信世小信あり物中一也小の
 ともれはあり信元信

予を尋ね奉りしに、先づ別位は先
 徳の法と稱し、一生は兼濟自
 他乃奇をあげてかぞへるべ
 本行を盡し、功を著し、誠を
 志せりとの言ふは、
 時或士十餘輩、率尔して入
 寺あり、を尋ぐ所と云く、
 ぬこれと稱せり、織田信長公を
 時上総介と稱す、元信が登と云
 為小僧人と云ひ、
 元信これと云はり、
 志出成り、
 里切、
 乃入来せり、
 くれ、
 此を、
 これと、
 り、
 せん、
 知ぬ、
 比未、
 志と、
 よ、

此を、
 これと、
 り、
 せん、
 知ぬ、
 比未、
 志と、
 よ、



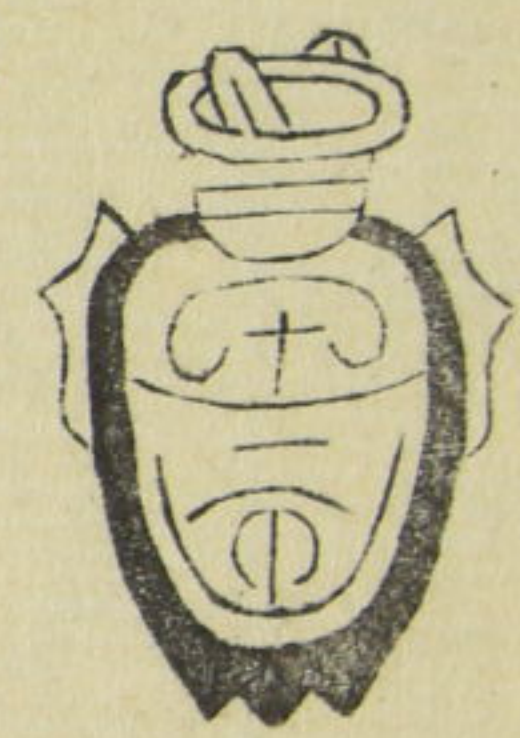
本朝
下

三
下
三

子と記せり

去也

印文



家用法服三言 傳記不見

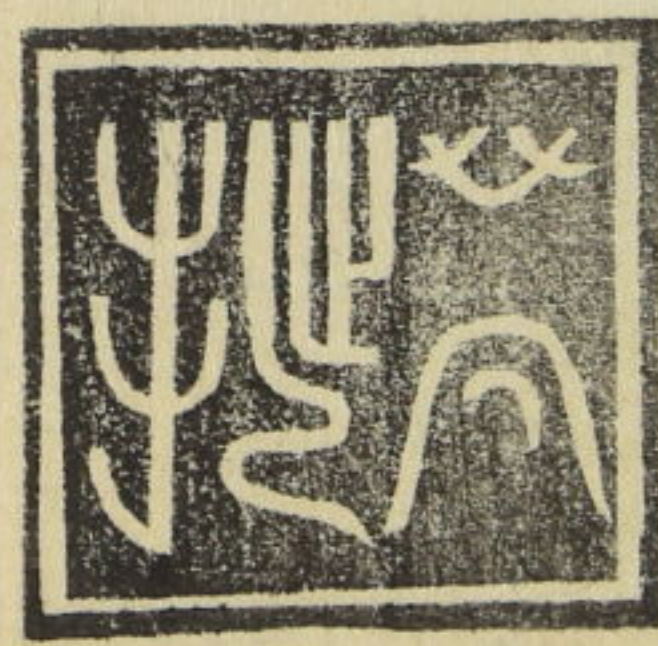
印文



子三言 右法服三言 傳記不見
子三言 右法服三言 傳記不見
子三言 右法服三言 傳記不見
子三言 右法服三言 傳記不見
子三言 右法服三言 傳記不見

養拙

印文



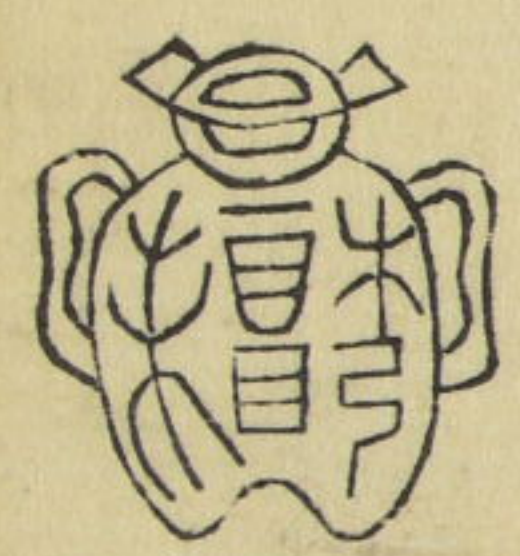
能三言 養拙三言 傳記不見
能三言 養拙三言 傳記不見
能三言 養拙三言 傳記不見
能三言 養拙三言 傳記不見
能三言 養拙三言 傳記不見

所知ぬ

傳三言 養拙三言 傳記不見
傳三言 養拙三言 傳記不見
傳三言 養拙三言 傳記不見
傳三言 養拙三言 傳記不見
傳三言 養拙三言 傳記不見

真笑

印文



是れより先づ一に五世衣系と
稱す津と別信と云

永述

印文



持世宗考 三言 松葉仲子たり翁

法ありて 家見永述とす 翁と云

龍縁と云れりされば父兄に及

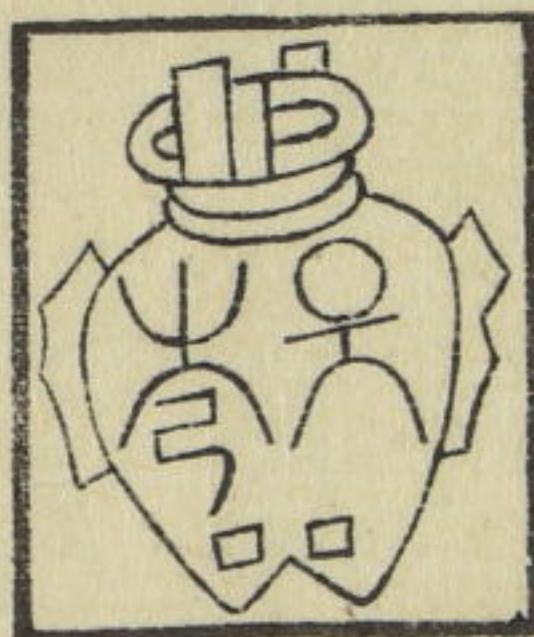
びず 法眼位小ぬす

去後 三言 信名基も 延元季と稱す

宗考 子永述 甥たり 傳記

真説

印文



持世源七郎 三言 松葉 三男方たり

永述と云ふ 三言 松葉 三男方たり

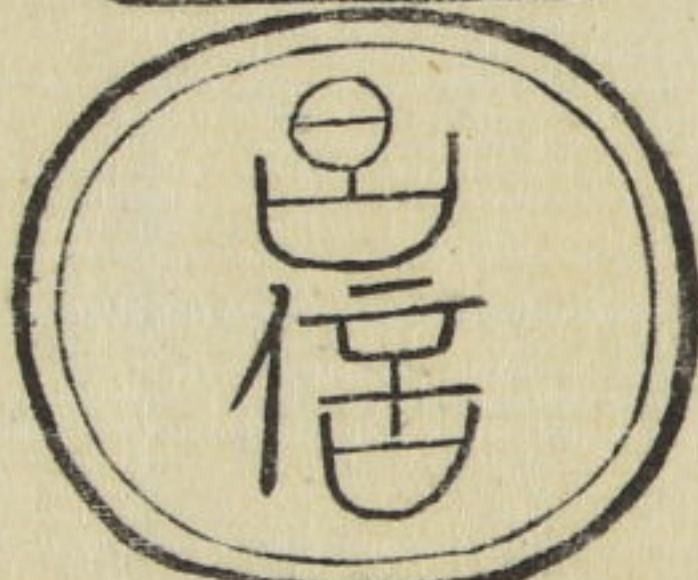
後年より 新奇なる 松葉永述

先三と云ふ 大なる

休白子 三言 法橋 休と稱す 津八昌

休永述が 甥 松葉が 孫と

印文



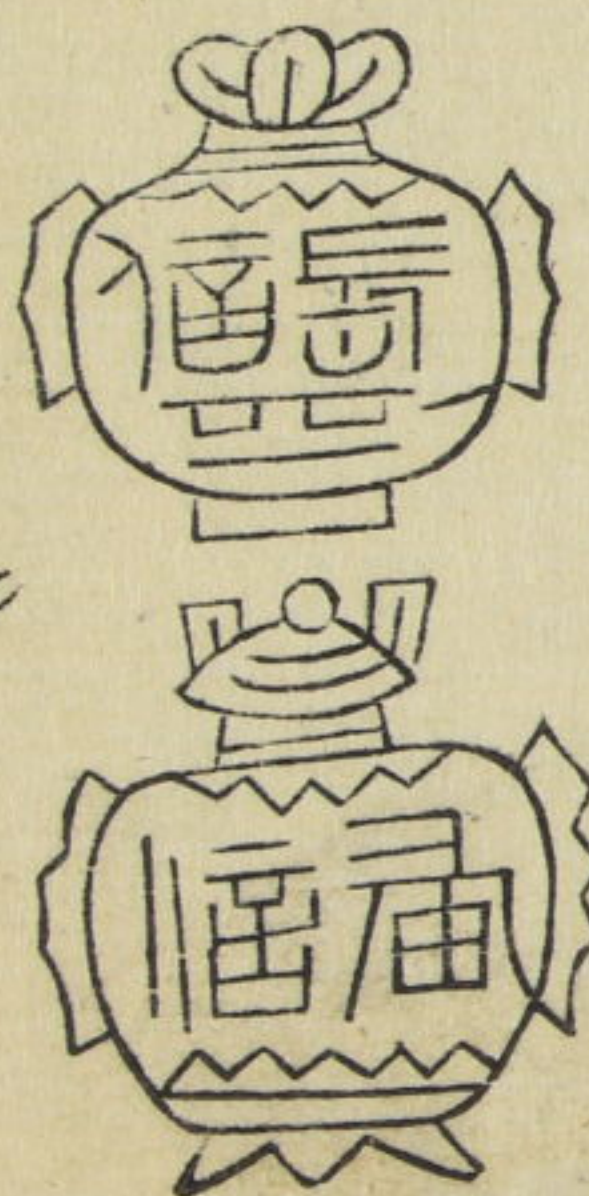
又印文あり 長後と云ふ 翁の

法橋 休白と稱す 同く 吳り 翁考

印文

前法橋

休白印文



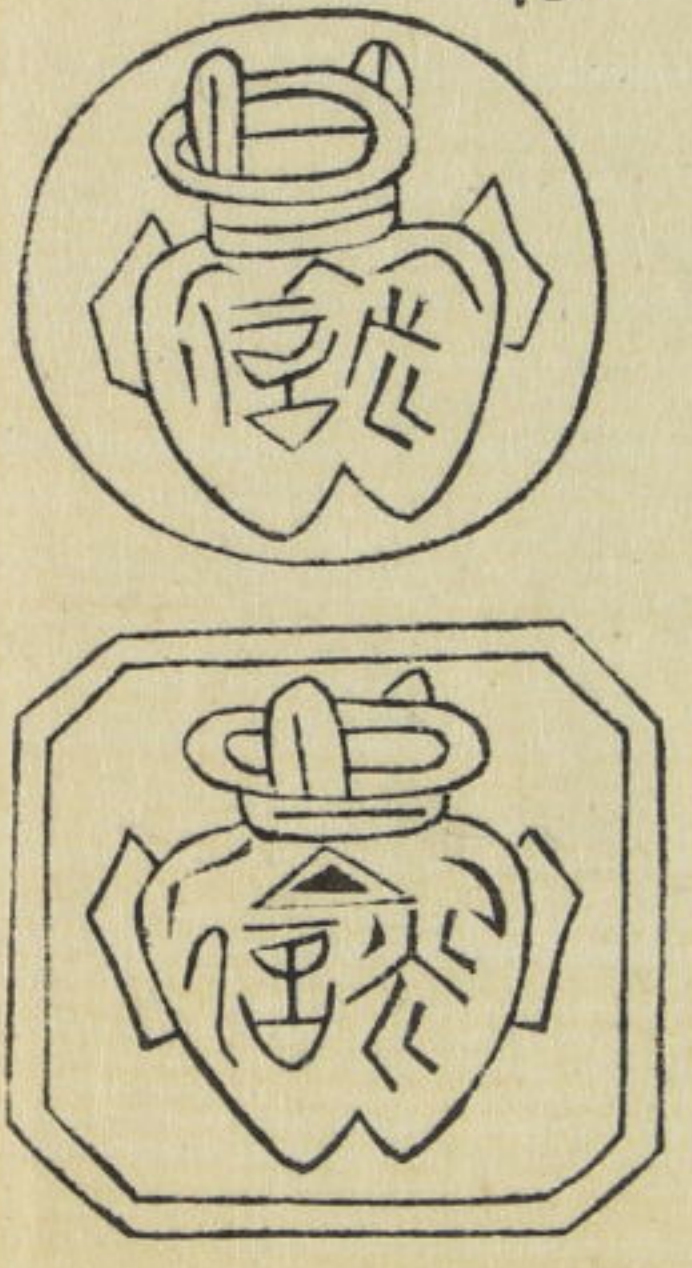
友近の 三言 右系を と稱す 永



徳が矯子たり屋力父小志守
 叔小法法とつとへず又叔とく
 後家族門生榮小崇奉せん
 て致とと一法法と好花家舎
 重成多く和屋乃風意極柔小
 志と志一の庵一又玉洞の宗
 とあり又奉小及ずとととと
 又凡多ありざらりれたり海小
 お必ち乃法堂天井の幡鈴ハ
 正家りの老候々雲痕あり又長
 正乃年曰十二歳中とくたす
 永志と出た子とす初ハた系す

右京光信

印文



下
 百
 五
 四

本真身
下
再

法眼より起りて法中へ教と
お上法皇乃勅額を承りて
玉徳と成し探幽とて

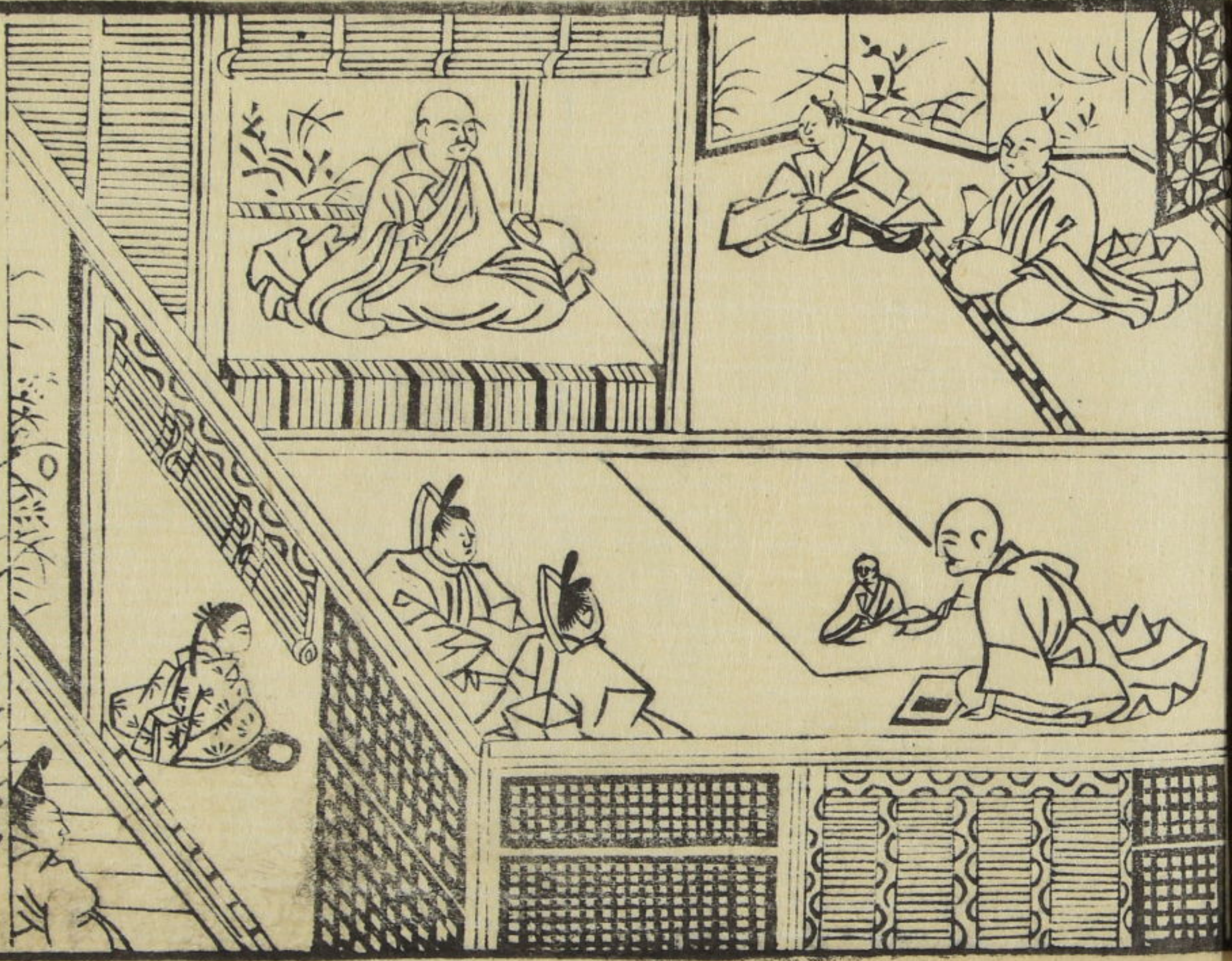
小菴多尔乃聖徳のり延喜二年
甲寅十月七日家ありて祖と壽
考七十二歳 別傳云探幽法眼
白蓮子文月は法中へ教す法中
とく名を奉筆生好く傳ふ
後陽成院を又七壬寅曆生也

探幽
印文
守信



印大
方二寸

筆峯夫
居士アリ



古昔大内裏崇宸殿貫聖乃
懐子魚目金目が筆資乃詞を
小野道風が書く中平記云



東一之間。馬周。
。房玄齡。少多。イ



。杜如晦。ト。ヨ。イ



。魏徵



東二之間。諸葛亮。
。遼伯玉。





張子房



第五倫



東三之間 管仲



鄧禹



鄭子產



蕭何

東四之間 伊弉



○好公望



○傳説



○仲山甫
子ウヨ系



西一之間

○李勤
世并



○虞世南
グセセチ

○張華



杜預



西二之間

羊祐



陳寔

揚雄



班固



西三之間

寬榮



本朝

百十



鄭玄

蘓武



倪寬

西四之間

文翁

董仲舒



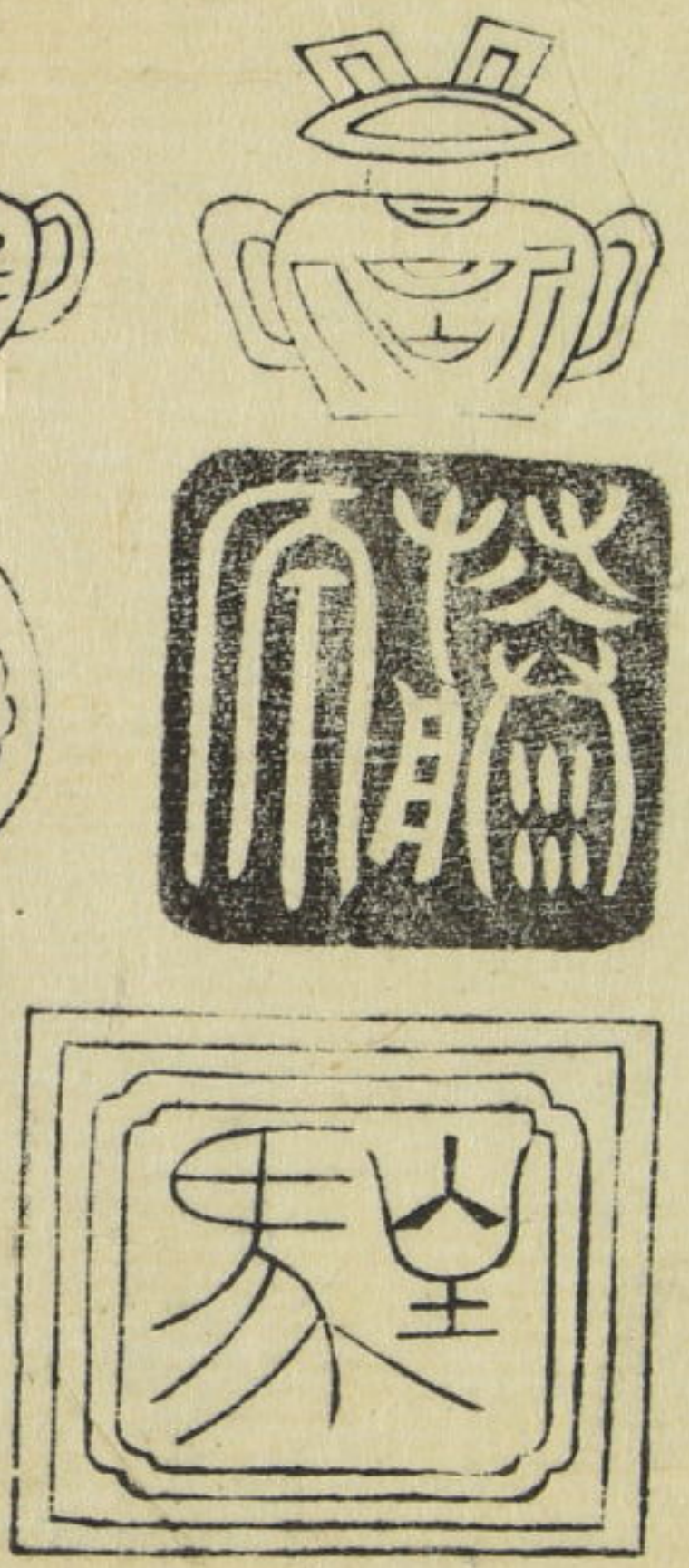
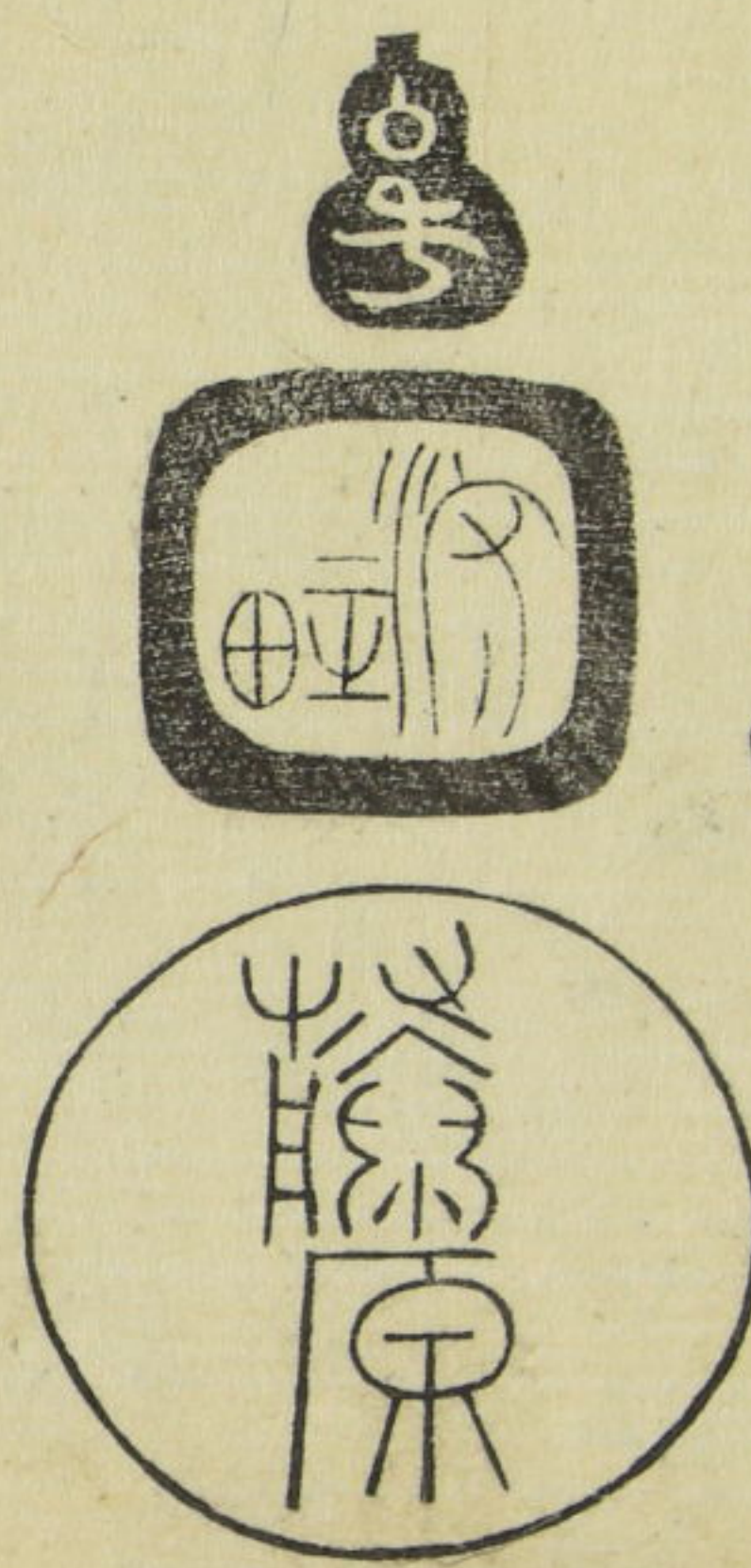
賈誼

叔孫通

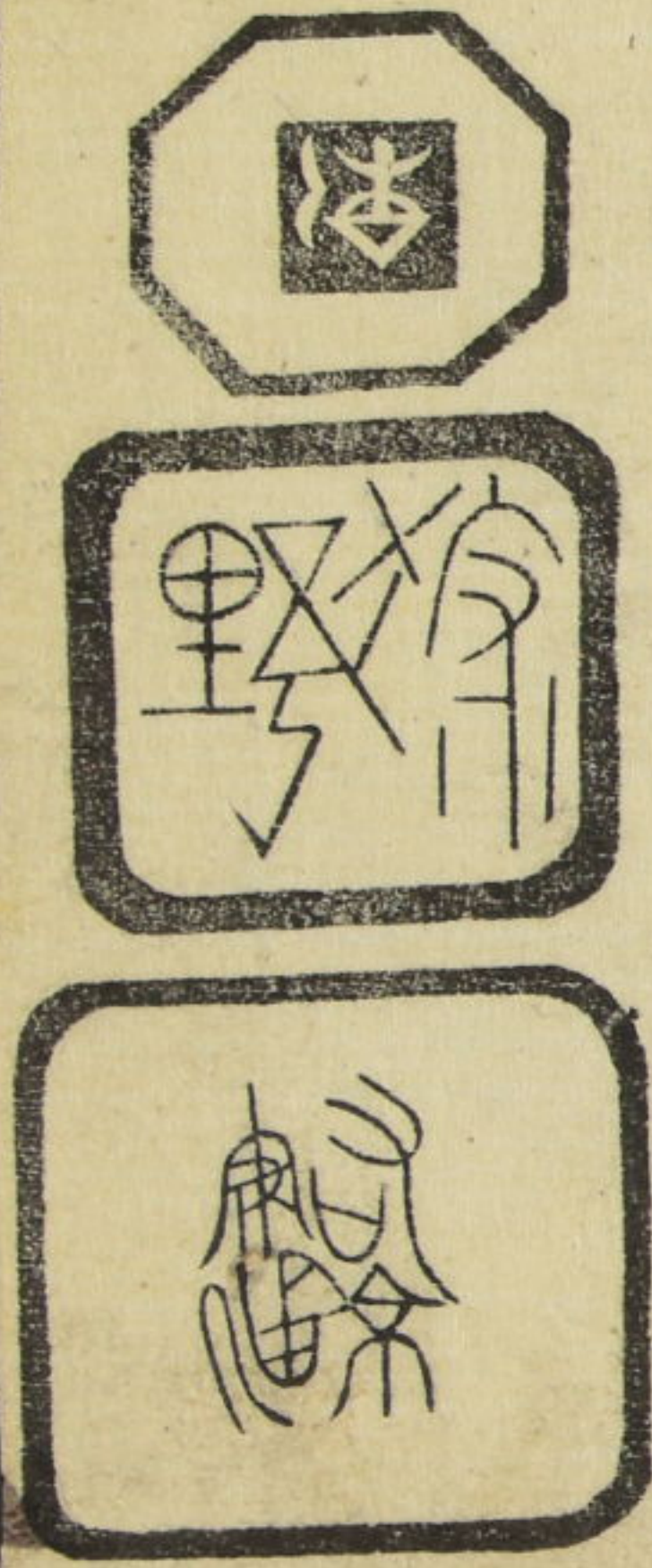
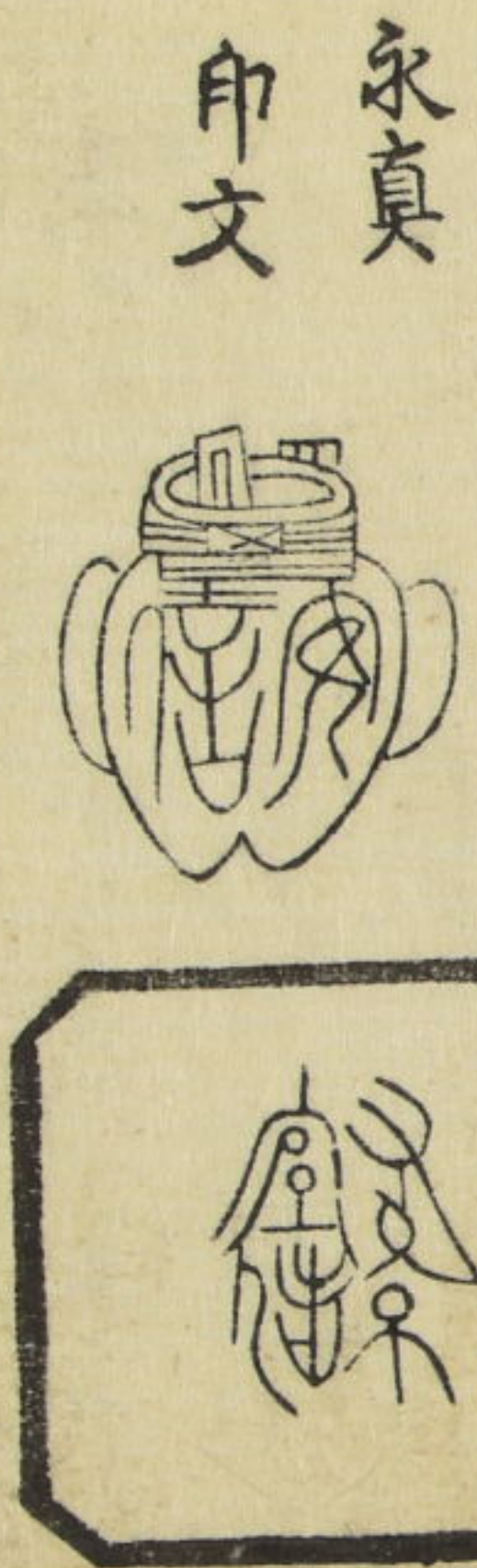


ナラフ 三百ニユメスケ
 尚修世四三三ヨと修す又自遍
 と修す孝修が仲子探幽才

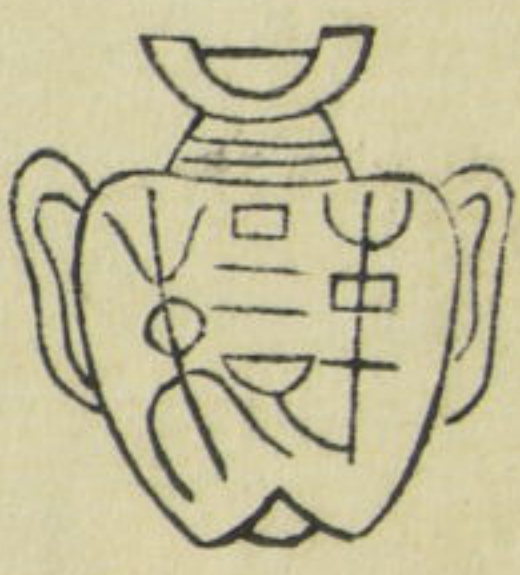
自道齋



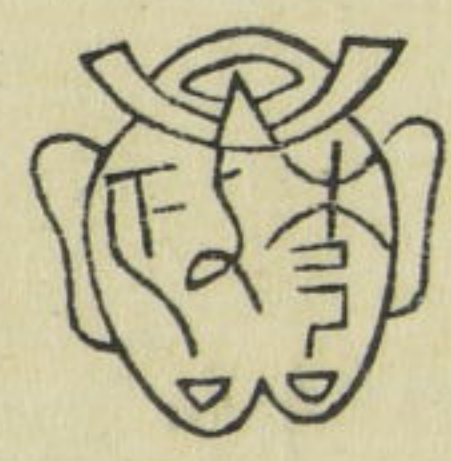
永^エ志^イ 三百^{ソク}ノ^{ミヤウ}
 衣^ウ近^キの^シ監^{ケン}者^{シャ}修^{シュ}り^マ末^マ子^シ探^{タン}幽^{ユウ}才^{サイ}あり
 右^ウ系^{ケイ}安^{アン}位^イ又^{マタ}救^{クウ}心^{シン}所^{ショ}と^ト号^{カウ}す^ス所^所
 法^{ホウ}服^{フク}必^ヒ叙^{シヨ}す^ス后^コを^ヲ修^{シュ}監^{ケン}光^{クワウ}修^{シュ}才^{サイ}
 体^{タイ}白^{ハク}く^ク舞^ブと^トあり



了不共治約に傳記不見



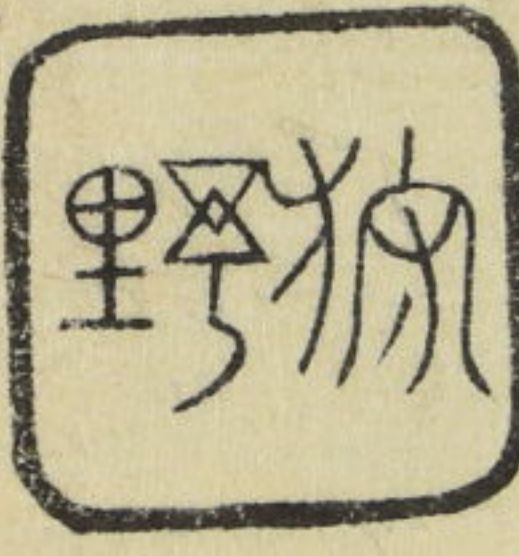
了義リヤウセウ七百七百又了義リヤウセウ七百七百と云伝記不見
律季リツキ改了不共約に傳記不見



元傳ゲンデン七百七百八傳八百人八と云法名云後
又云順又云順と云

信シロ之之九九集集人人と云傳記不見

隼人



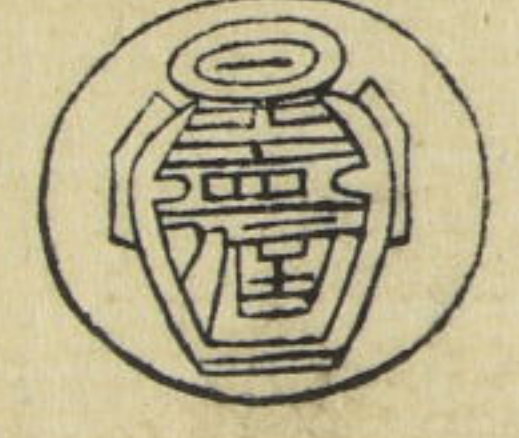
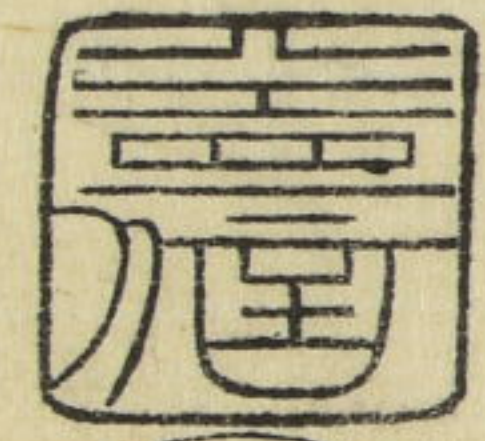
系トモ了不共約に傳記不見

時トキ信シロ一一倍倍後後源源空空節節右右系系と稱す
船フネ渡ワタリ孫孫孝孝信信孫孫永永美美子子あり



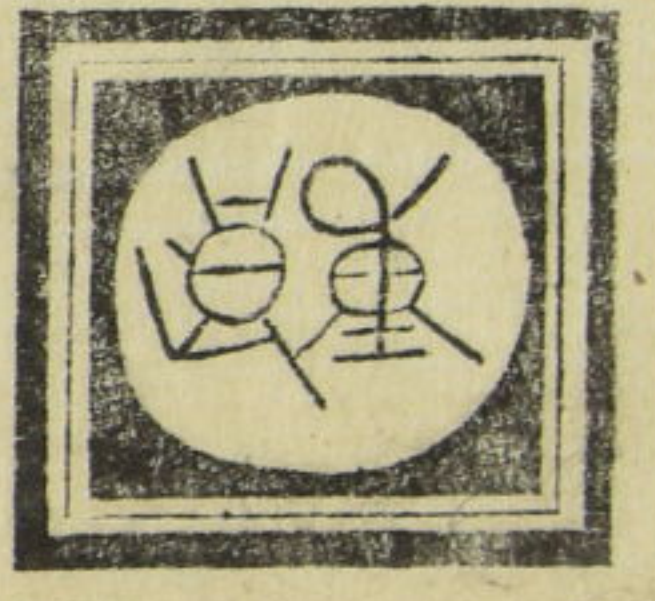
親オヤ信シロ三三百百三三百百と稱す
益マシ信シロ三三百百三三百百と云又洞雲トウウンと稱す
探タツ出デ書コト子コあり

益信
印文



常トコ信シロ五五右右進進と稱す又主ヌシと云
耕カウ免クニ秋アキ用ヨウ外ホウ左サ稱す

同近カクニ三百六拾壹カクニ 法名宗心と号す
 何ナニ様サマ三百一サウ溪カキと稱す法名集化名



祖ソ師シ三百八拾壹カクニとす法徳門エイトク也
 外ゲ化キ三百九拾壹カクニと稱す法名政と
 云法名系門クニヤリ右近ミナト舞マユたり

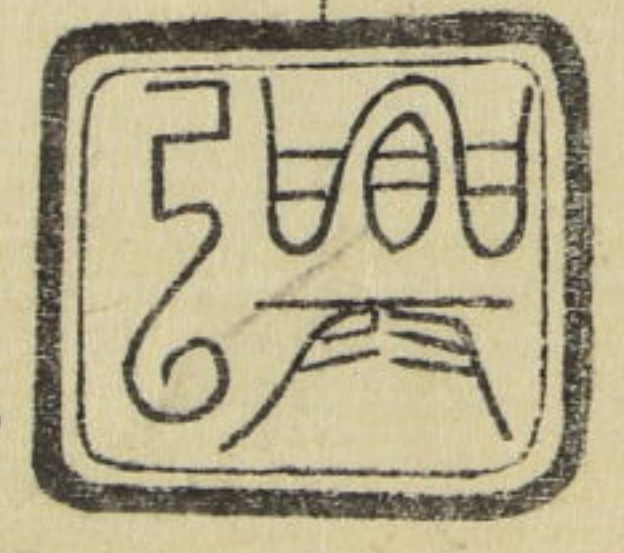
印文



道味ダウミ三百九拾壹カクニと稱す法名政と
 系昌ケイショウ三百一拾壹カクニと稱す法名政と
 系小ケイコ後ゴ所ショ屏ヘイ風フウあり

法名系門

興コウ意イ三百九拾壹カクニとす法名宗心と号す



興コウ南ナン三百九拾壹カクニとす法名宗心と号す
 系ケイ傍ボウ興コウ意イ三百九拾壹カクニとす法名宗心と号す

印文



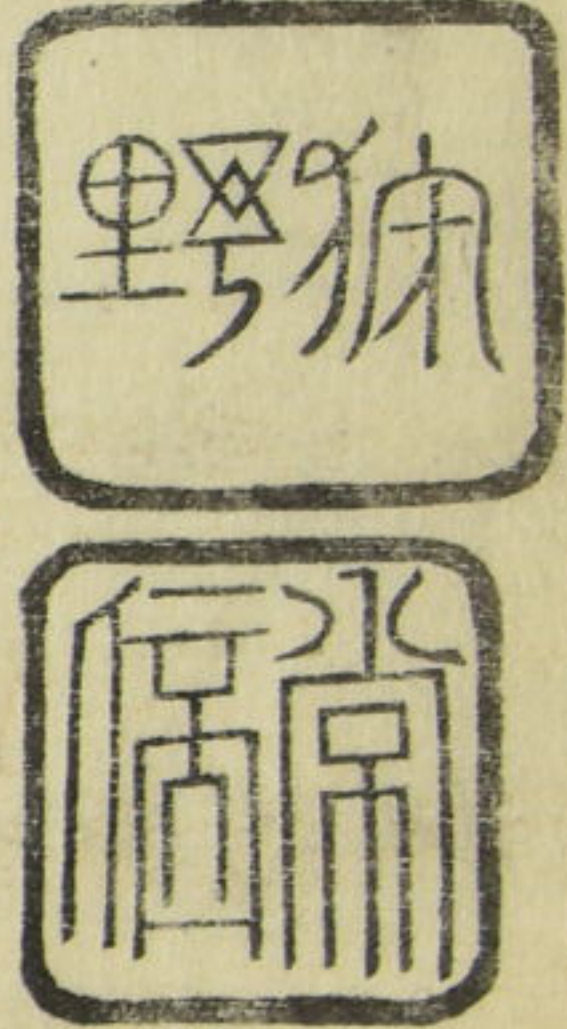
興コウ也ヤ三百九拾壹カクニとす法名宗心と号す
 刑ケイ教コウと云法名宗心と号す
 水スイ戸コ小コ居イす



白南系



常信



ニキクノ 三音 三音
書作 丑 女 彦 あり 信 常 と 云 探 幽
ノ 姫 孫 あり 清 原 氏 乃 妻 あり
此 名 系 承 あり 上 に あり

清原氏女常信妻下

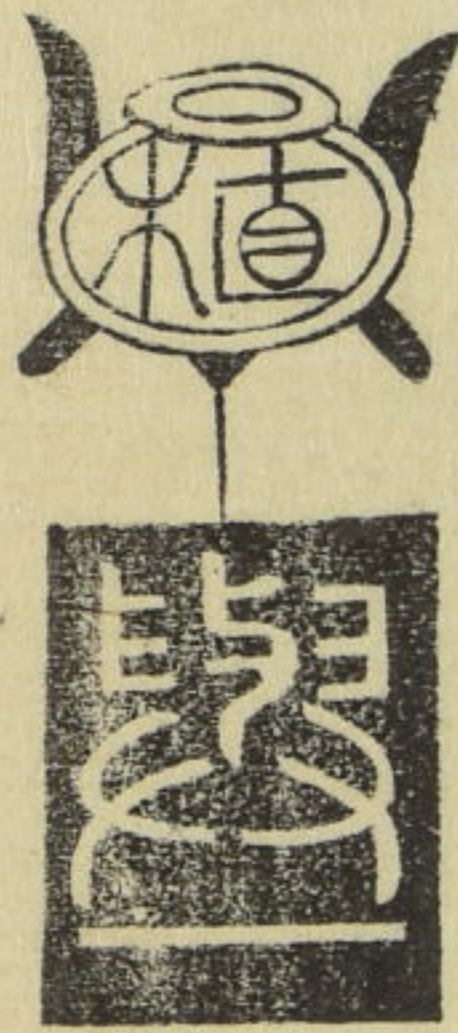
雪女

印文



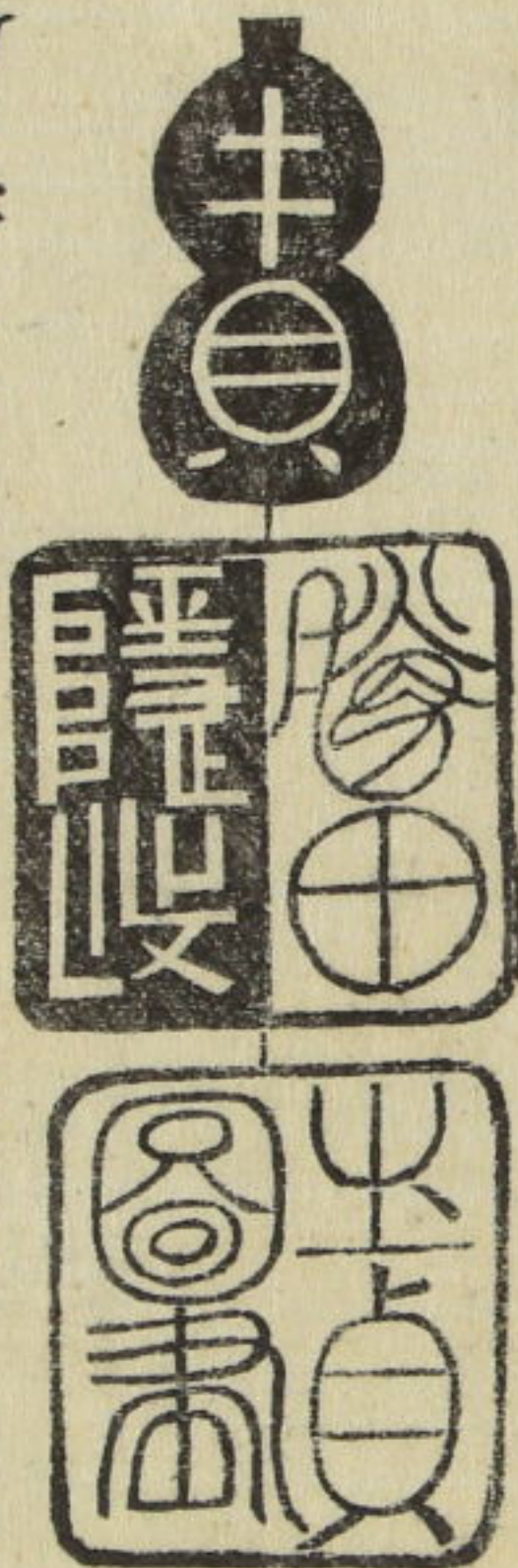
与一 三音 丑 本 又 松 白 乃 云

印文



ヒキキタ 三音 三音
大 貞 五七 務 田 原 氏 又 竹 氣 と 稱 す

体白門あり



被 作 夫 三音 三音
改 作 丑 丑 法 持 宗 仙 と 稱 す

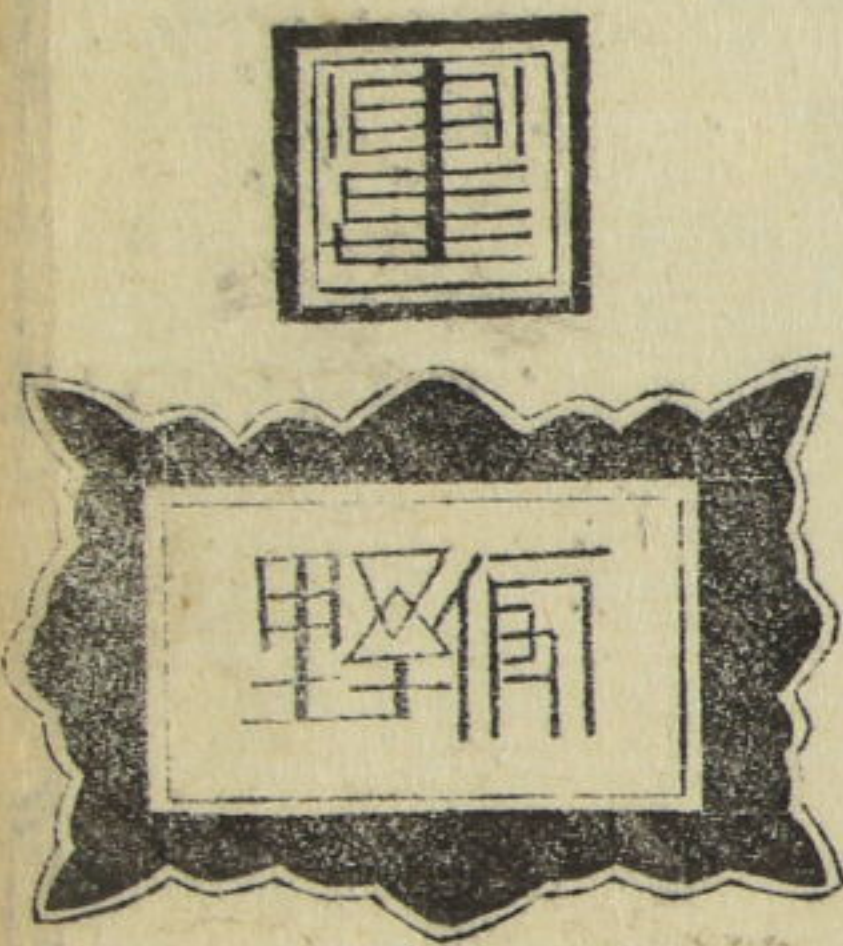
宗仙

印文



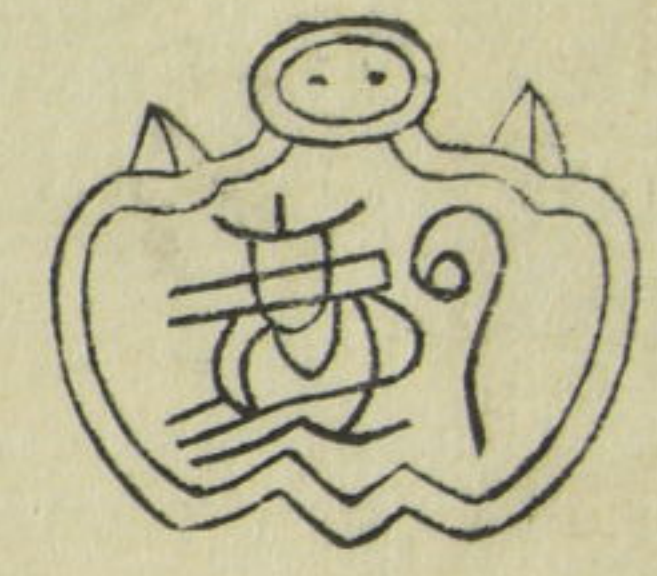
皇 信 卒 持 聖 内 膳 一 系 と 稱 す

印文



了教六二 俊色氏 傳記不見

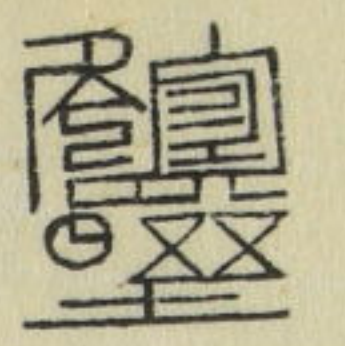
印文



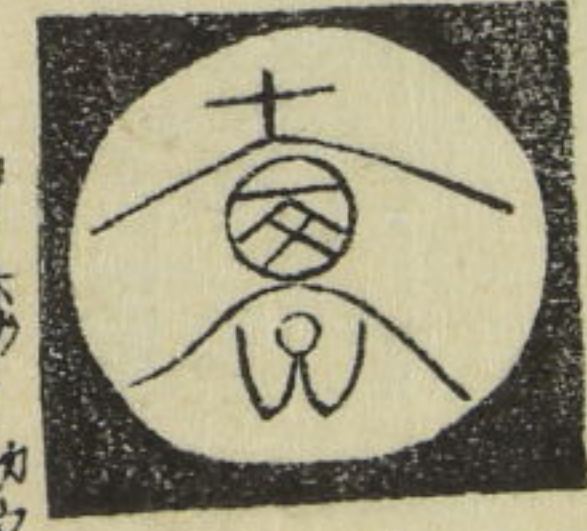
九玄術 六三興 三言カウイ 尊之了教約之
氏位 六三 法后友益 大玄師と稱す
九玄術 小約之

大學

印文



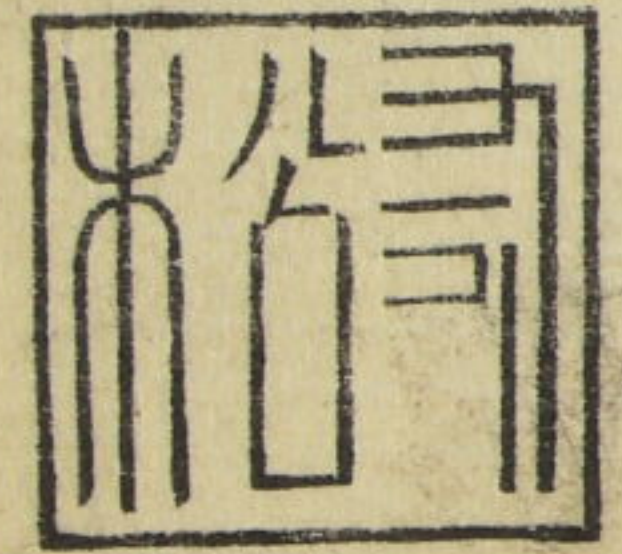
友益 印文

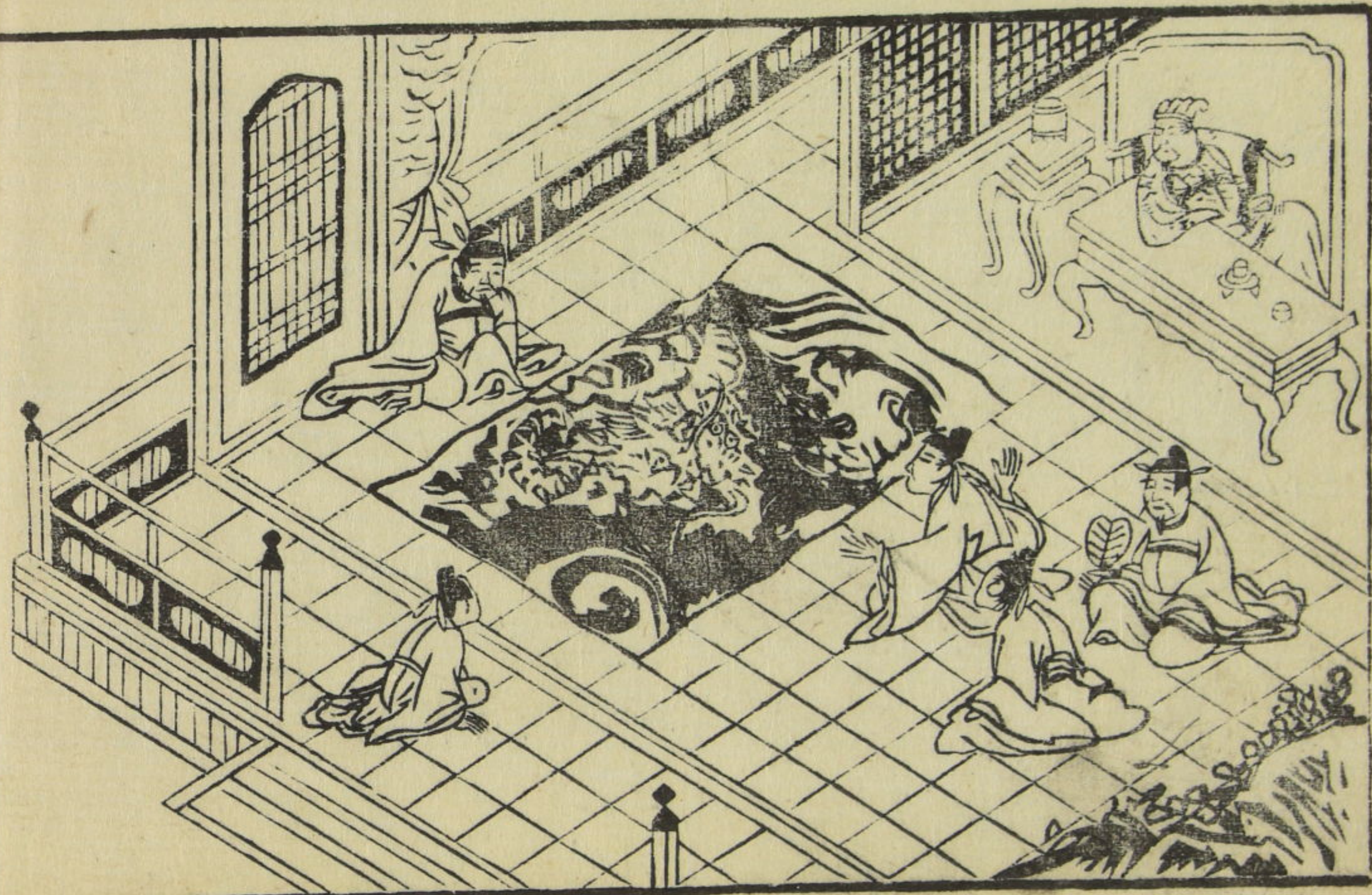


友松 六三 偉ハ紹基氏ハ海北之江別

師とてとる子と多所益人物
茶花會獻まかしくお似たり結
まゝ色物しく造りたる水滸
志しく引去るそ切込とす
けむ悦年世れあふ揚りんせ
らる益根終小筆法と改てそ
書戲とあて清間あり古の
机搬とぬまげ當時故るそ書
籠とあての和辭國玉小あく
まより能く慈玉書と友松小約
りりくそあてこれと貴をすそ
子友書あてと抑とす

友松印文

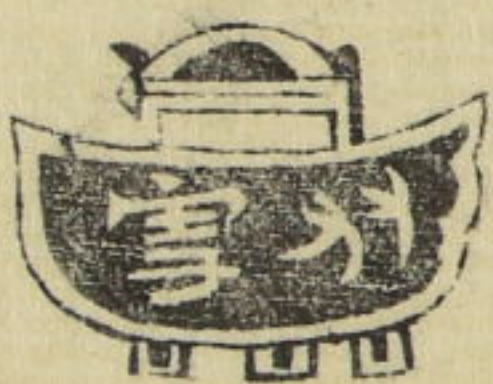




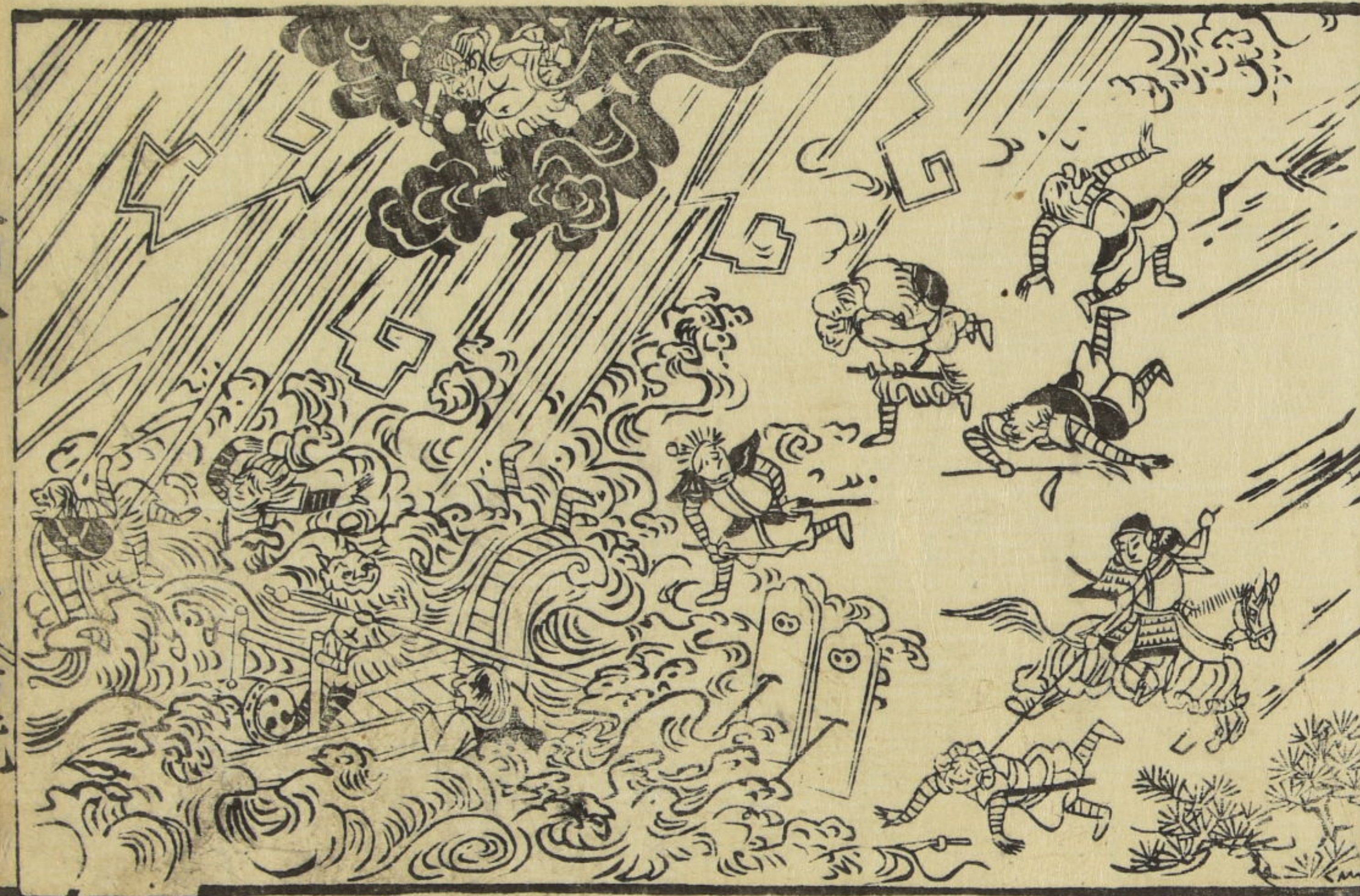
友松 三五 友松が子なり 菫暉

齊と号す 富阿 海東 徳ある
乃 栲奴 ぬの なる 田村 丸 編 記
久 景 の 板 絵 新 撰 ぬの 雲
上 小 かく せ けり 抱 たり

菫暉茶園



木村 永光 三六 江戸 藩 主 の 人 談
井 長 政 小 住 へ けり 伝 たり 柳
繁 志 へ けり 号 する 持 野 三
楽 光 光 乃 本 姓 氏 父 あり 持 野
え 伝 郎 也 源 一 也 也 也 也 也 也 也



宛々ふりく又よく美と書
ふまぜり平素作年云ふか
ゆとたこれとせり故小せよ

持聖山樂^{三三}律^{一三}の光^{三三}と号す

女名平^一義^一と号り本村^キ永^カ光^ミ

子^ア方^サり^シと^メ後^サ井^サより^シ終^テ

冬^ト長^ト吉^ト志^ト小^ト宿^ト一^ト世^ト光^ト

夏^ダ徳^スある^ス故^ニと^シ命^ス小^スと^シ

永^ニ徳^ス小^スと^シ又^ニ其^トと^シ物^ト

改^シく^シ持^シ聖^シ氏^シと^シの^シ後^シ光^シと

号^スす^ス則^シ其^ト法^トと^シを^シ三^ト傳^トと

号^スり^ス也^ト云^フ東^ト福^ト吉^ト法^ト堂^トと^シ号^ス

天^テ井^シ小^ス古^ク傍^クの^ク飛^クが^ク号^スと^シる^ト禱^ト

破^ハ屋^ク乃^シ所^ク行^クる^ト也^ト付^ク其^ト屋^ト永^ク

連^ト小^ト禱^ト法^トと^シ終^レれた^カら^レん

病^ヤ小^トゆ^クと^シ補^ルぬ^ル功^トと^シ也^ト

茶^サ小^トと^シ光^ト於^テ小^ト極^クと^シ也^ト健^ト也^ト

古^イの^シ紙^シと^シ小^ト法^トと^シと^シこれ^トと^シ天^ト

井^イ小^トゆ^ク一^トむ^ト故^ト小^ト芳^ト而^ト暴^ト雨^ト小^ト

と^シら^レん^ト年^トと^シと^シ破^レ屋^トと^シり^ト今^ト

再^サ興^スと^シる^ト本^ト垂^ト小^ト板^ト面^ト小^ト法^トと^シけ^レり

龍^リ頭^ト二^ト文^ト修^トめ^ト乃^トの^トけ^ト十八^ト文^ト教^ト

日^ジ小^トと^シと^シ切^トと^シ終^ト時^ト小^ト光^ト於^テ年^ト

修^シ也^ト是^トより^シ終^ト時^トと^シ修^ト天^ト井^トの^ト禱^ト

終^シか^レあ^レず^ト故^ト面^ト小^トと^シと^シ又^ト也^ト云^フ

天^テ王^トと^シ成^ト興^ト復^トす^ト光^ト於^テと^シと^シ

聖^セ徳^トと^シる^ト乃^ト終^ト時^ト公^ト堂^ト修^ト小^トと^シ也^ト

あり^ト橋^ト巷^ト而^トと^シ修^トめ^トと^シ男^ト心^ト終^ト

か^モ坊^ト小^ト寄^トと^シり^ト是^トより^シ終^ト時^トと^シ

也^トり^ト 東^ト照^トと^シ終^ト時^トと^シ後^ト故^ト小^ト

山尊

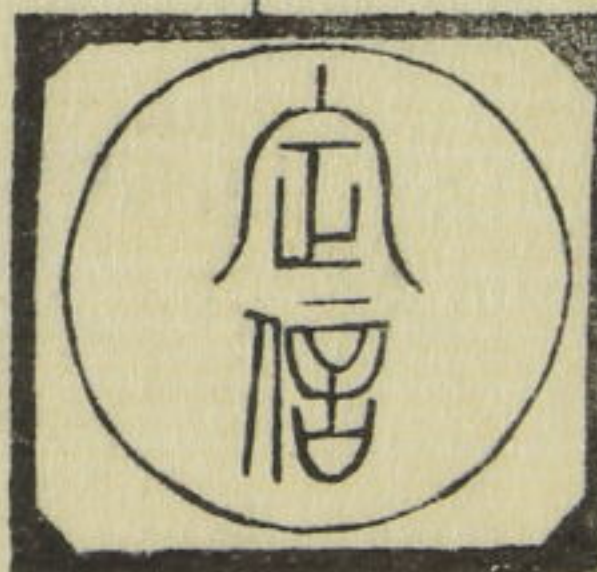
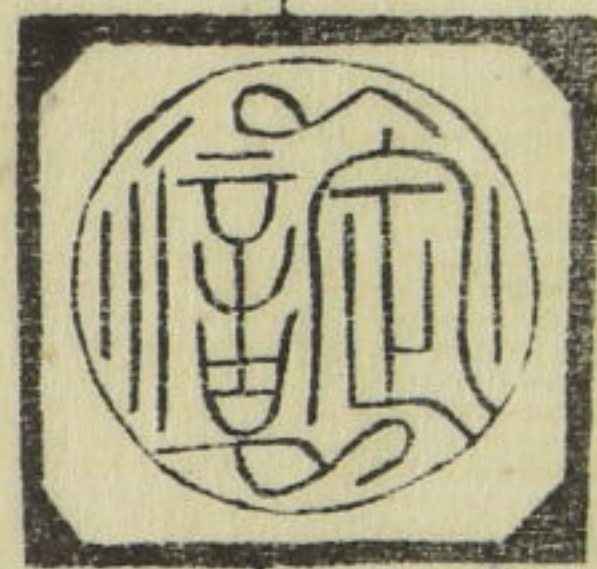
水理

軒輊

靈山



養浩文ヤウセイ 七三 傳記不見



法服肉磨フクセツニクスリ 七三 傳記不見

印文



伯圖ハクツ 七三 傳記不見

多倍

圖

伯圖

徑及スエノスケ 七四 永納



靜

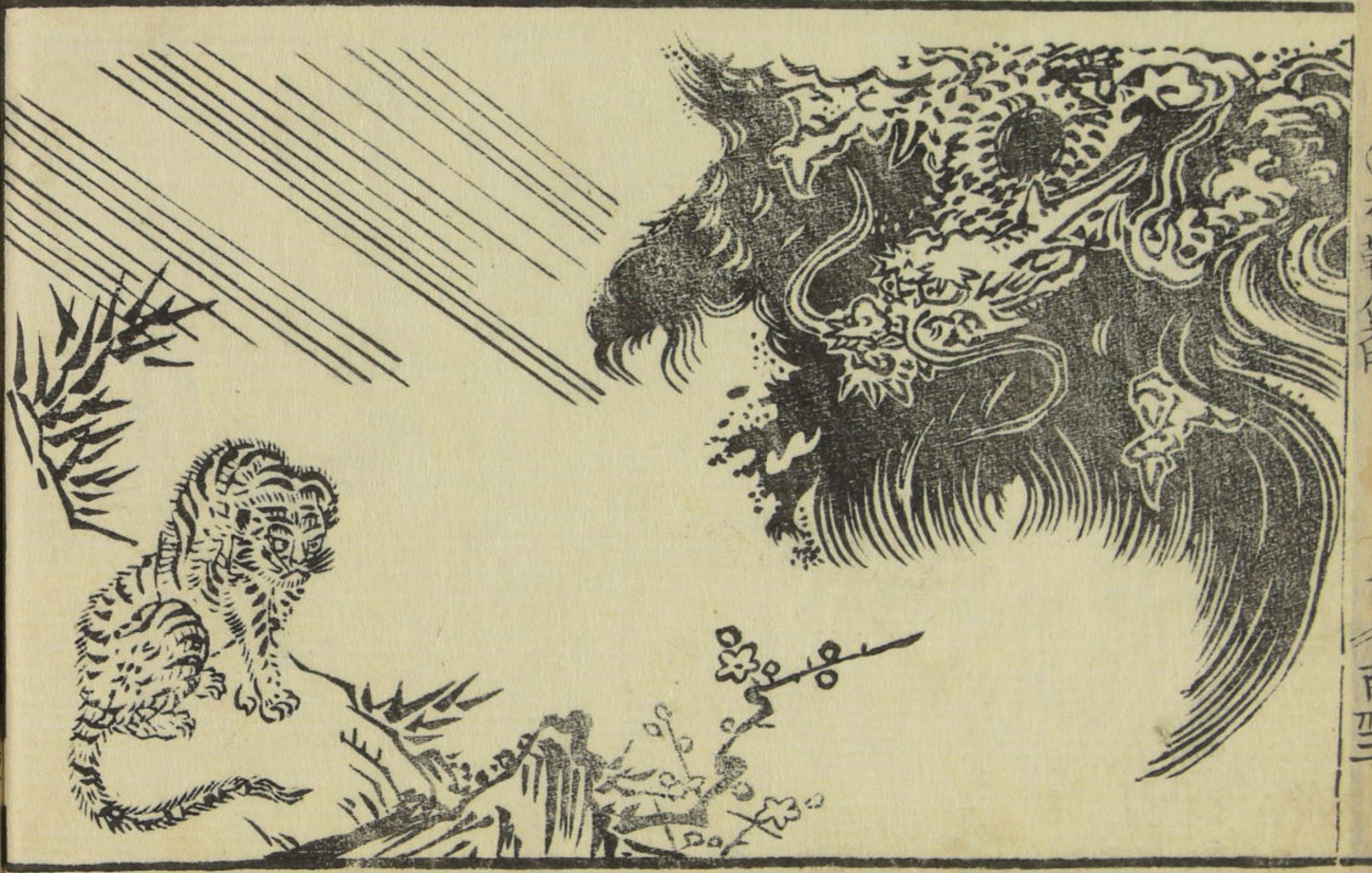


右内紀コナイキ 七五 清修キヨシユ

洞野

清修





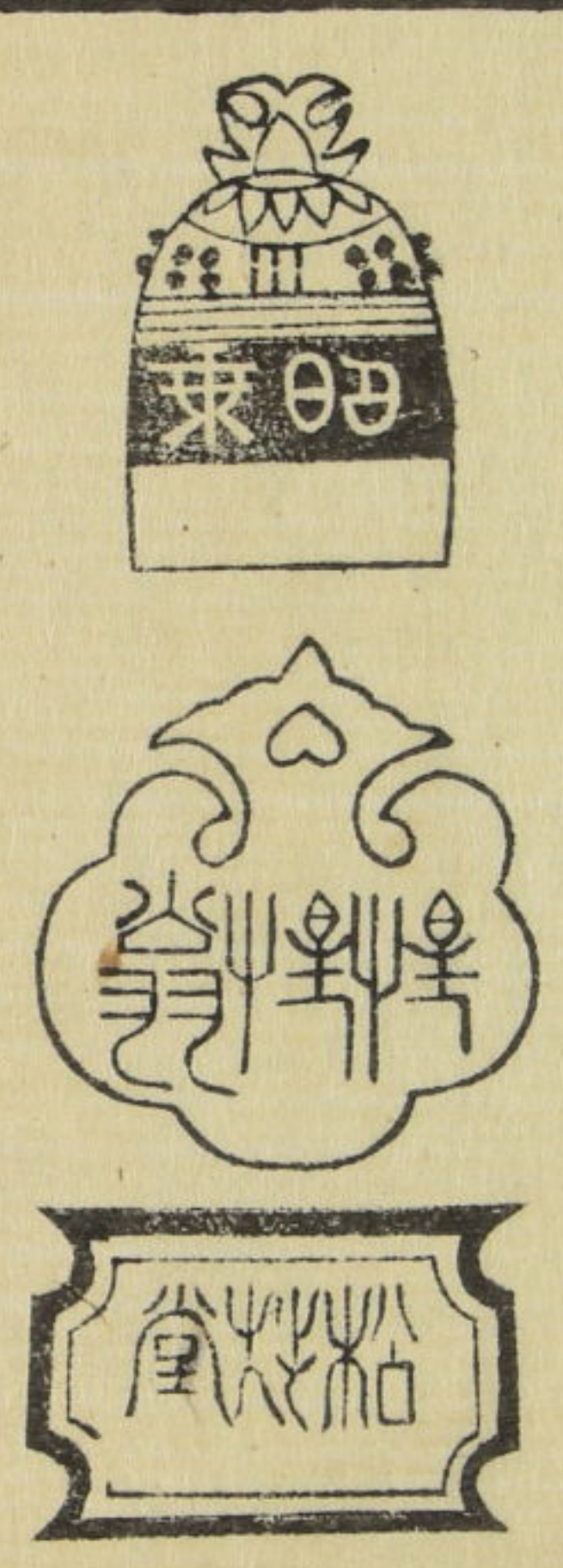
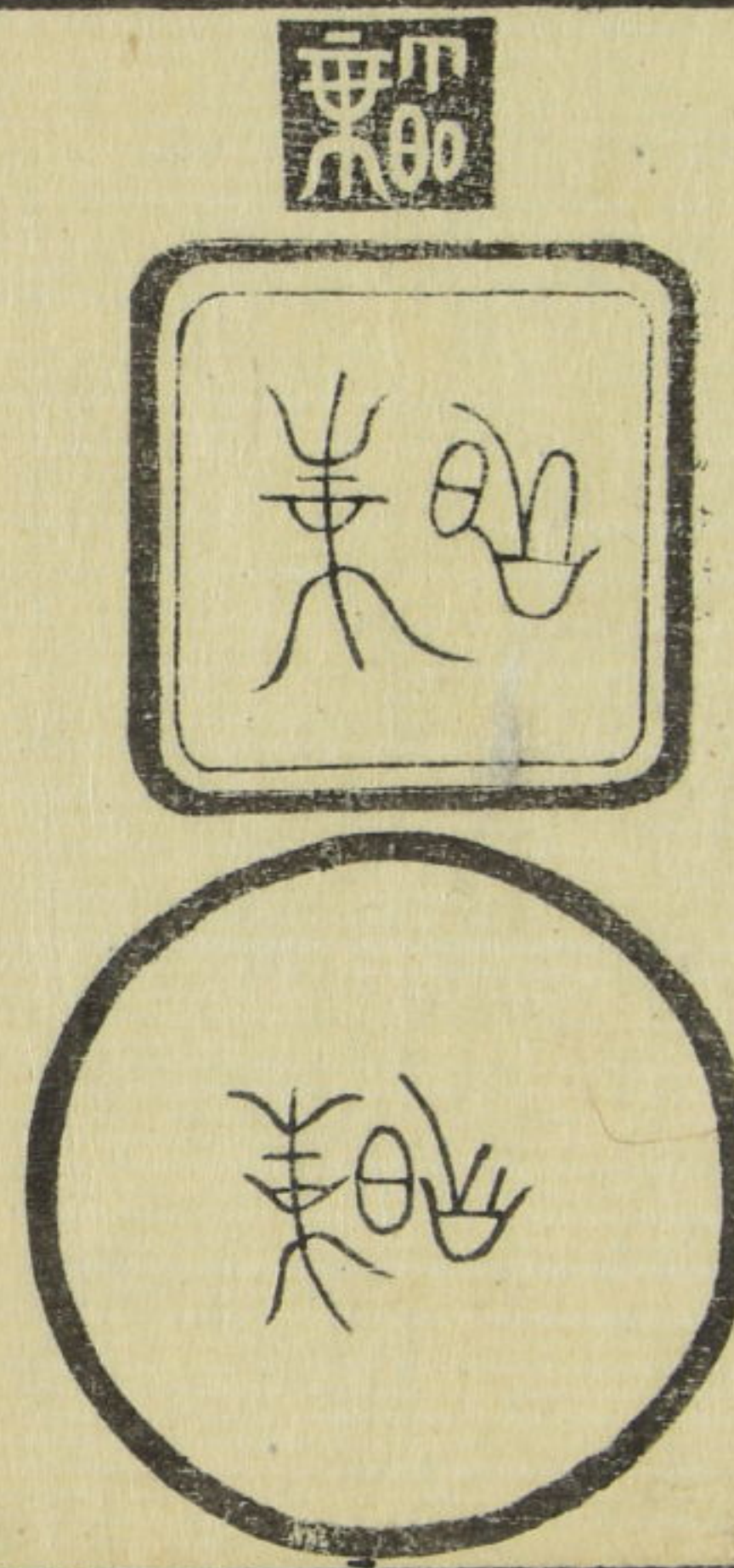
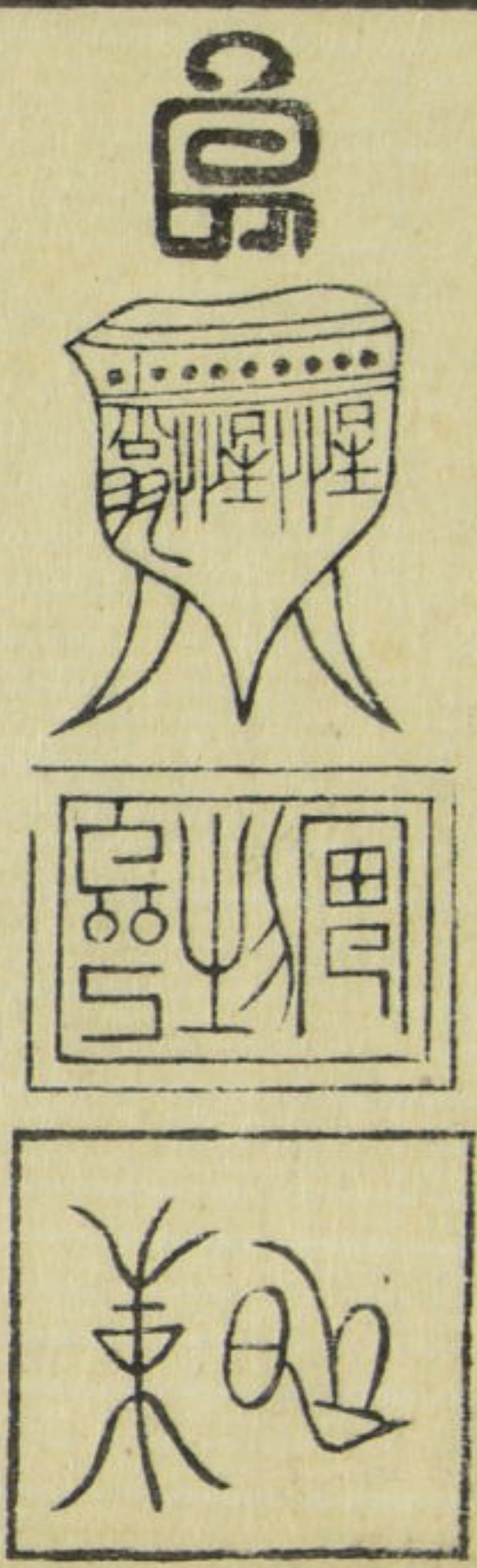
法書并ともあひびくそまむと

ゆり

法書并ともあひびくそまむと
 瀬川坊胎糸ハト石法あ坊官也
 懼々糸と号す中治氏なりぬ
 ちく男おあのりあ敷ともあひ
 終小流坊お住す坊校小方丈
 と笑一自かす松花堂と稱す天
 性書と能くく世れおとらんせ
 ら坊居も又とまかりを長年中
 流伝無違乃何持聖山樂大坂城
 如く男山流本坊お高居たり
 順糸とん小流と号す成まのる本
 あり自かす一處れ風流のりく
 牧溪乃流雲と号のく尤を有能
 と坊より寛永十六年九月十日
 小氣す年又十六月又式部卿

と採す

南山隱士惺翁



友

額安田友 三百八一

印文



傳陸川 八百三 名永海九列乃人也
元和年中系師不極く控筆
乃家小系く乃之山雪翁と云
面よりとんお興小為れり
後すそ乃法雪翁より出文
新念あり法雅控筆

拈拈中ノ聊寄舟あり
了收三墨竹道とあぐく筆法云
おとまのぶ拍たり

宗用四漢人とあぐく筆法云お
しりゆり

墨沢五ノみ小墨沢乃字と筆
法書舟とまのぶ米常天祥乃

像とあぐく
孤月六ノみ小周林乃字あり

米常天祥乃像とあぐく書舟
ガ筆意とまのぶ

陸忠七何伴乃人とあぐく墨
山とあぐく筆法云徳去わが

風とあぐく雅競とあぐく拍たり
良海八ノみ魚傷久丸の像と
あぐく筆法云村小似たりあま

如寺用林使乃契とあぐく舟
墨心無体たりせみ傳ありあぐ
わ

那え九ノみ米力とあぐく筆
法書舟より出渡墨云法雅と

賞を志すの筆
与紫十福祿来とあぐく墨云ハ
香舟とまのぶ拍たり

宗継十一瘡痕とあぐく香舟と筆
意とまのぶ拍り

与坡十二十牛墨とあぐくけりそみ
あ墨茶煮とあぐく香舟より筆

筆法又俗小あぐす
祐周十三墨山とあぐく香村が

筆意とあぐく

巴泉十四布衣とあぐく墨戲

約乃後坊列山に雲居る小庵せ
る時乃ち号と月ひたり名を
備たり雲居の姓氏小ありざり
みんまをり但一益傳乃商と

以く氏と一用り此り

備膳西上人四百十九雲居る乃ち於

なりくく和奇と極ず益居撰

集ふありし和奇曼茶經

乃後とあぐくそ馬本經と

五物ありし和奇經起小載

偽親花四百廿九西山三法と二世乃經

うく和像とあぐく今古小經

亦乃和服大地の別親花乃あぐ

亦たりけく和奇とそそめく

之極雅せく推集ふ載伝り

ぬ人治泉四百九糸民終つ乃女あり

常小益技とくあそ毎日ゆ

陀仏とあぐく所業とせらじ

洋小本の發心集小あり

文勢乃忠四百廿九新也十六種漢乃

徳とあぐく皆中系乃風俗ま

衆力終ぬたりけく金号が簡

あぐくそ衆法和別三編と中

乃坊ふるそとあん

良金法四百廿三畫とくすさ

可糸と律と月とす續れと

そ人時代月とくは益法も

別格たり本國とる什物小漢

三十二幅あり益後小回公平七年

壬辰三月七日益之良金集と

とくけく公平の南稻坂村上院

乃年号あり續れが従来和列乃

本朝御記 終す故に後唐天祥の像
あり本朝御記と用ゆまおまの御記
ふあらず御記法航送すの御記
あらず御記くくこれ御記乃人乃
墨戲りくはく河内西天祥の
ちびくこれとるあり

御記法航 世一 意名あり文昭年
中乃人なり

御記法航 世一 意名あり文昭年
中乃人なり

御記法航 世一 意名あり文昭年
中乃人なり

御記法航 世一 意名あり文昭年
中乃人なり

御記法航 世一 意名あり文昭年
中乃人なり

御記法航 世一 意名あり文昭年
中乃人なり

御記法航 世一 意名あり文昭年
中乃人なり

御記法航 世一 意名あり文昭年
中乃人なり

御記法航 世一 意名あり文昭年
中乃人なり

御記法航 世一 意名あり文昭年
中乃人なり

御記法航 世一 意名あり文昭年
中乃人なり

御記法航 世一 意名あり文昭年
中乃人なり

御記法航 世一 意名あり文昭年
中乃人なり

御記法航 世一 意名あり文昭年
中乃人なり

月梅接政 光昭等も接政者
光昭接政 嗣後接政の系は
接政の系は乃以上又之の系は
乃以上又之の系は乃以上又之の系は
乃以上又之の系は乃以上又之の系は
乃以上又之の系は乃以上又之の系は
乃以上又之の系は乃以上又之の系は
乃以上又之の系は乃以上又之の系は

武田信俊 武田信俊 武田信俊
武田信俊 武田信俊 武田信俊
武田信俊 武田信俊 武田信俊
武田信俊 武田信俊 武田信俊
武田信俊 武田信俊 武田信俊
武田信俊 武田信俊 武田信俊
武田信俊 武田信俊 武田信俊
武田信俊 武田信俊 武田信俊

武田信俊 武田信俊 武田信俊
武田信俊 武田信俊 武田信俊
武田信俊 武田信俊 武田信俊
武田信俊 武田信俊 武田信俊
武田信俊 武田信俊 武田信俊
武田信俊 武田信俊 武田信俊
武田信俊 武田信俊 武田信俊
武田信俊 武田信俊 武田信俊

日本古今通記 日本古今通記
日本古今通記 日本古今通記
日本古今通記 日本古今通記
日本古今通記 日本古今通記
日本古今通記 日本古今通記
日本古今通記 日本古今通記
日本古今通記 日本古今通記

古社に繩を巻たし是を形り
 古來之法を以てこれ如く括
 ひりしは繩一層と云ぐぐりこ
 とれを天井とのぞりたりとく
 ぐりしは梁間小堀のくひりく
 幽窓圍門のりるを以て何れも
 呼卒中朝の繩を以て思ふも
 と知ぬなり申さるるを以て
 かくとるに相間もかゝる廣
 くとくこれ中不ありゆる人物
 類と稱しゆるを以てあつらん
 とさる級を以てしるるを以て
 とす又雲出と名中不なれば
 上下ふとくを以て空と云く
 繩と云ふは長とわぐ中不な
 く松樹と云ぐ教枝と云ふて

一掃り長條乃精彩と云ふ
 奇ありかか糸を以て法あり
 松樹聖佛掛乃物人物を以て
 官位ふとくを以て屋敷の
 早小を以て山ありおいて
 名性樹等はいさく漢乃
 文と用ゆるは孝忠の林石
 したる金盤と用ぬ舞臺子
 ぐりしは繩と用ぬを以て
 級級細糸をかきとて繩
 かありすは四寸乃糸俵ふ
 あるは深酒平淡乃を以て
 ありしは繩と用ぬを以て
 形乃状を以て奇巧と括ひる

登障小豆袋掛の法式

大人形大鳥虎獅子等の形を
用交ふるを大座敷板面の正目
より脂かたと云ふと云ふべし

桐子扇

一曰孝乃花と云がた芋瓜芋虫
と云すべし大座敷板面と云す

扇面乃る法

一 扁扇 ひとへに若乃
扇あり紙扇あり

一 松扇 官家不用ゆ又若乃
扇あり

一 袖扇 官家乃云連を若乃
扇あり

一 扇面 所謂元服乃若乃持
て先例とすこれ扇面は扇多

く松竹鶴亀と云ぐ又ハ松と鶴

と云ぐ又ハ乃雲ありうらの
後ハ蝶と雲と雲あり地ハ

一 桐子扇 桐小鳳雲あり小
女御之扇

一 あり雲ハ又ハと云ぐり金銀
云ハ素ハ蝶と雲とあり地ハ

一 侍女乃扇 あり小若乃
花あり又ハと云ぐり雲あり小

一 右三乃扇ハ又ハと云ぐり
左扇ハ若乃小若乃短あり

一 男之扇 若乃難と云ぐ
りハ今の世ハ本と云ぐ

一 右三乃扇ハ又ハと云ぐり
左扇ハ若乃小若乃短あり

一 男之扇 若乃難と云ぐ
りハ今の世ハ本と云ぐ

これと白紙紙をくじまじりぬれ紋
 と他くこれとおさびらぬれあり
 一 赤廣紙麻 王公卿大夫小用
 ひらくお乃ぬれとくま金地の
 上小雜紙とあぐく松下仙人花
 名あり松原傍正長巻又これ
 とりのこれと申急と名はく
 一 白紙之麻 高橋定まうずま
 うまそめりあふぬす麻呂の於
 て腰巻と用巻紙行りまのり
 一 巻紙 これも又これとてこれとあ
 ぐく地紙の糊地と用ひすくま本
 ろとあまふ

巻軸之畫格

一 ちを年中行りあまあり呼

秘畫紙巻るまを巻紙とま
 巻も紙とあくるま巻より大あり
 いなりぬれまあより巻紙

押絵

一 ちをより十二支乃ああり又十二
 月乃花巻又仙人禪乃紙巻と
 あぐく花巻山あ件あああ
 そりああああ

あ巻材紙之巻

硯之紙

一 家石 古より用るとまのり
 門出下乃実よりあるとま
 王代へ世々石面麻あ

色を色極英潤紙なり今用ら
 ず乃袖の法と奈らに墨乃どくふ
 潤製す尚世産墨乃法と知く
 るんと潤合せると亦佳ありを凡
 墨自りくるとんゆうとあり守今
 乃油製ハ胡麻油と上品とす葉
 種紙次とす花胡麻と又も次とす
 灯心一筋とりの格と二とド
 管と格と次と潤紙ハ産紙乃
 膠蒸と引らるるお熟す
 産墨 新志に之報言一古
 さら報なくとく、らんゆうも
 級ハ文字と、和漢の紙
 とんを色もあひる墨もあひ
 いたし古に墨ハ紙ぬくとれ
 凡紙小法とすと知へ

一 牧溪墨 是ハ牧溪と名ふるも
 一 槌乃目三子程もて座落
 産たりハ墨沢房和尙不指もて
 松花堂ハ法より、あふ松花堂
 ハ墨と以て強と書るもハ松花
 堂乃法ハ墨と云ふハやうれ口
 傳られざるれたり

筆

一 冬麻毛 夏麻毛 批毛
 鼠鬚毛 けいし 箭筈ハ鼠の
 背毛と月ゆを世書をも乃大字
 一の産毛と月ゆ毛とありて尤
 大なるゆへ一有用なるも此の
 皆それなりと云ふべし
 法とくもされれと高の用ゆ

刷子 後むけのゆかりを麻毛

とつくこれとゆかり一寸式すより

又寸ふのゆかり又度さ大むけあり

膠礬を並糊刷小用

葉糸 葉糸は採くゆき

と葉糸とこれとつより大ぬと葉

糸一年と強くこれと用りやう

ぬく可なり粘り家代く

お徳ゆり物所使永徳が葉糸を

けり粘り粘りかす小値たり

粘り 粘り云々粘りたり和洲

くち末かきやゆり粘りの

紙

紙 紙糸紙と上品とす

心生瀬とす或は名塩と云う

細粉ありと云うかき粉と

及す 及す生瀬とす及す紙糸

角紙 官紙と云うとす粘

云々粘り乃云々粘り

粘り粘り粘り粘り粘り

粘り粘り粘り粘り粘り

粘り粘り粘り粘り粘り

粘り粘り粘り粘り粘り

粘り粘り粘り粘り粘り

粘り粘り粘り粘り粘り

及す 及す粘りの粘り

及す 及す粘りの粘り

及す 及す粘りの粘り

と用少所傳要用ハ別去本志
てこれ小伝と推當一と乃ら小
於たしあり

畫絹 緑目織細めと片織
形く多清ゆゆと編帯あり
丸捲用と一

繪具筵居

古へ原順亦名類西和汝小景後
具乃筵居と載納れた在世の不
勝と云付ハた小勝るもやう一
仍く近世畫家亦亦用とら亦
とあり一とちハ採す
佛居小所傳合まあり
膠と合くとれと用少礫中やと
沈く膠と亦せずととと筆捲

と心くたきんくろと能ま下

これとく採く解まどやうし

練まハひり一申まらありと

お初ふるま夕たり一及長年中

採別々田れ派山乃中小物と

練まろくこれとかり出せると

は山ハるれと採聖山樂みま

不乃採地たりとれ故中山樂これと

つくこれと左園巻長ス小まの仍く

朱々山樂小弦より自今以後これ

とあるの世と一とととら今に

つくとこれとあるひありとやま

のりく練まハ練ま乃中よりと

ひりくこれとら山二も此具は

と田山乃産物らして後るのり

練ま 和名故小本等と引くと

緑青一名ハ碧青と云膠と合く
 これと用ゆ御法とる赤緋青や
 月一緑青乃らうり白絲と云
 光の赤 中意より赤の具あり
 物と緋をゆと代料ま
 膠とあせとえと用ゆ
 和朱 膠と合とらうり丸微あり
 腫るをれうりハ赤魚小聊り膠と
 る赤乃赤をたり又赤小調合
 て朱墨とことり

丹 中意より赤の法赤の
 光輝あり膠と合く用ゆ本
 赤色系於赤泉乃境の津みと乾
 明丹と焼りそとら丸微赤あり
 法紺をふこれと用ゆ
 綿胭脂 俗ふこれと生胭脂

玄後赤乃粉なり綿ふ赤せり紅
 脂なり赤ふひ一指ありこれ
 志ありと赤汁と出すけと赤
 心とこれとわとめ漸く赤と出
 とと膠成とせず

雌黄 後赤乃粉なり影赤ふ
 脂黄をれなり膠と加へと赤と澄
 ぶとこれと粉ありゆ

紫乃紫花なり膠成とせずこれと
 粉と脂ありと一漸く赤と澄
 ぶとこれと粉ありゆ
 られと用ゆ搦り時割と粉とれ
 粗ゆと用ひこれと赤と調合
 紫花乃とと赤とと粉とあり

胡粉 様中赤粉一併とせり

これととり殺却して膠を加ふ
 膠は多量程俾れとくしりく削
 く小葉のいとく入伸く月
 黄去 膠と合せず併し用るや
 一と一膠と加ふありそ乃
 邦を切り一並ふは紫去ハちく膠と
 然月少丸物と和しく之と膠と
 膠脂 俗懸支とく小極くは紫去こ
 本種枋本あり明懸ととり合
 煎一これとくこれの終小葉也
 と出とくこまやちり花柳粉と
 くらつ時を殺去乃とくこれと用
 金高 打中 亦ち高紙別紙
 微油成とくこれとく一と極
 くれと厚肉障子のと小切とあり
 を地汁のぬのと極く膠と加

とくこれと押あり

銀箔 金箔小同くこれと扱す

金泥 金箔ととりて膠小和

これと清すとくめさ中み散て

指環のりとこれと扱す同部を

一 終光輝と出す

銀泥 金泥小扱ひく清す

切油 俗小金銀乃ぬまとり小

小麻皮ととりて膠上小葉

カととりとこれと極くこれと極

釜山椒小石と名吹く并ふ

墨 漢法ととりこれととり

あるひい綿布をぬれとくおの

墨上小懸ととりと極く名りか

終 書書小雲鶴と用く極小

本朝器具 下百五十五

蘇汁 唐の六若蘇と云あり螺
蘇と雌黄とこれと合くと月四葉
乃汁と云かりた浅深淡淡を
粉膠と云ふす

作黄土 唐の六去朱標と云あり

朱と雌黄とこれと合すと胡粉

膠液と云ふす或は黄土と加ると

生胭脂 是実ハ綿胭脂あり

膠と加ると成るものと淡粉と用

蝶 右洞合くと用るなりとれ

淡粉 旋と云あり

一或は墨と云ふと色と法と

りは是れと云ふと用るなりと外

跡と云ふ件くと云ふと云

外乃傳ると云ふと云くあり

る何と云ふなり右乃亦同と

ず唐の蘇乃粉と云ふと名にあり

是も又と云ふと云ふなり何と

云ふと云ふと云ふと云ふと

愚草

和漢平文三百六十卷師並

弄玉集考れ全書ふりて

中約量跡四百教十人乃傳也

訓訳と云ふと云ふと云ふと

古今名師乃傳中と云ふと

善一平文ハ白小形のれと

ハはふりて云ふと云ふと

世小形なりと云ふと云ふと

別不存して平形と云ふと

のありと云ふと云ふと云ふと

傳歴と云ふは是の時ハ又志がく
中法と知らん事と欲す豊人
公乃僅使さる和宣あしづらん
やそれ梅葉乃たふひた右行
りてとく猶能とるも好やと
く守故小右師乃名下小待
ぬと記す傳あられ持野氏
永納此輯深とる和の全體
とるは林氏愚川氏乃席殿を
物と密ふうくひあ後長巻乃
叙事は物と云ふ一本傳小ゆりて
有略一ト魚乃露管とる伝
ゆくとこれと訓あふりしけり
洋政乃るもとくくもあくと
其訓訳とるも怒とてとく

西貢城失せざらん事と欲せり
平教のこれ先魁博志乃撰
集とる和法布とるに救案を
経たり修^{キケイ}飛^{キケイ}鏡^{キケイ}とる
世小の魚とこれと接とれ
と膠志とる中約量傳合款
京^{テヒ}表^{テヒ}と稱一と重象村とあふ
猶飛^{テヒ}踏^{テヒ}とるは關^{テヒ}海^{テヒ}とる
ひると欲とるもれあし
元禄癸酉夏冬浪急旅泊
菊本幸甫^{賀保}謹書

